

&lt;川越市&gt;

## スポーツ界 雨がっぱで貢献



医療機関に寄付するポンチョを持つJ1川崎フロンターレの安藤駿介選手会長  
＝川崎市（クラブ提供）

新型コロナウイルスの感染拡大で医療用の防護服が不足する中、スポーツ界から代用品として観戦用の雨具を医療機関に寄付する動きが相次いでいる。屋外観戦につきもののグッズが意外な形で「貢献」している。

雨具が注目されたきっかけは、4月14日の松井一郎大阪市長の発言だ。「雨がっぱを未使用の状態ですべて持っている方は、ご協力いただきたい」と呼び掛け、在庫を抱えている事業者には定

## 「防護服代わり」病院へ寄付続々

価での買い取りも提案。2日後の記者会見で、無償提供の申し出が約10万着分に達したと明らかにした。

関西のスポーツ界は早速反応し、プロ野球阪神タイガースはポンチョ4500着を大阪市に寄付。大阪に拠点を置くラグビー・トップリーグのNTTドコモもポンチョ提供を決めた。

同様の取り組みは他の地域でも広がる。サッカーJ1川崎フロンターレでは選手会が「医療従事者に何かできないか」と議論の末、応援グッズのポンチョ2千着を買い上げ、医療機関に寄付することにした。

プロ野球千葉ロッテマリーンズは1450着、J1清水エスパルスも500着の寄付を発表。

J2東京ヴェルディでは、雨がっぱとともに、防護服代わりに活用できるごみ袋も加えた。

&lt;産経新聞 令和2年（2020年）5月18日（月）&gt;